

所長になって

所長 田村 眞通

このたびの人事異動で所長となりました。よろしくお願いたします。これまでに魚類部、漁場部（現浅海環境部）で仕事をすることがあり、三日目の当所勤務となります。私自身は、これまでの勤務では周辺を気にすることも必要でしたが、むしろ自身で仕事を進めなければならない立場でした。しかし、今は、周辺の動きを意識し、全体的な方向性を探り、当所の方向性を見極めるといった立場に変わらざるを得ないものと認識しています。昨今の情勢を見るとちょっと抽象的な表現になるかもしれませんが、良いとなると一つの方向に大きく偏っていく傾向がみられます。船に乗船した時、乗っている人が片方の舷側に興味のあることがあり、そちらの舷に皆が移動してしまうと船は転覆してしまう危険もあります。そのような面でもう一方の舷でバランスを保とうとすることも大事なことではないかと思えます。少なくとも、試験研究機関に勤める者は一度原点に戻って自分の仕事を見直し、進むべき方向を再確認することも必要と思えます。

一方、当所では陸奥湾の環境把握ということで30年ほど前より陸奥湾に水温、塩分、溶存酸素、流向・流速、気温、風向・風速を一時間毎に観測し、当所にデータを送信してくる自動観測ブイを数基設置しています。現在、設置しているブイシステムも10年が経ち、そろそろ更新の時期となることから更新の事務をご支援願う竹内漁港漁場整備課長さんと一緒に当研究所のもっとも近くに設置されている青森ブイの調査に当研究所の調査船「なつどまり」で先日行ってきました。当研究所からブイまでの途中の海域で、多数のイルカが飛び跳ねているのを目撃しました。以前の7年間の勤務時にはこの様にたくさんのイルカを見たこと

はなく、自然が豊かになり、心温まる思いがする反面、イルカはイワシを求めて湾内に来遊したとの話もあり、漁業にとって競争相手が増えたと感じ、複雑な気持ちになりました。ある一つのことを捉える時、必ず、良い面、悪い面があります。きちんと様々な面から考えることの必要性を改めて痛感しました。今後、このような考え方に立って当所の仕事に励んでいきたいと考えているところです。

当所では陸奥湾を中心とする浅海海域の環境に関する調査、ほたて産業に関する調査、魚類の種苗生産技術の構築、藻場の修復も含めた磯根資源の増殖に関する調査を手がけており、対象とする漁業を発展させるとともに漁業者の立場に立った技術作りを行っていきたいと考えていますのでご支援のほどよろしくお願いいたします。

